

スタンレー電気と開発

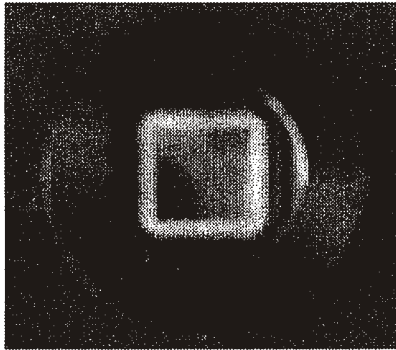
対応の カメラ 高速度 低光量

理化学研究所発の ブレインビジョン 医療用途を開拓

理化学研究所発ベンチャーのブレインビジョン(東京、市川道教室長、03・3976・3075)

はスタンレー電気と共同で、低光量の撮影環境に対応した高速カメラを開発した。同社従来品に比べカメラの感度を六倍に高めた。脳の神経活動の動きをより細かく把握するなどの医療用途を中心に、三年間で百台の販売を目指す。

「MiCAMUnit」は理化学研究所脳科学総合研究センター(埼玉県和光市)の工学博士の市川社長とスタンレー電気の研究開発センターが共同で開発し、



ベルギー製のCMOSを使う

「MiCAMUnit」は高速撮影に適したCMOS(相補性金属酸化膜半導体)を開発した。スタンレー電気の研究開発センターが基本設計し、特許料を

一つ的光子がセンサーに入った時にいくつの電子を発生するかを表す量子効率(感度)は、市販の一般的なカメラだと三〇〜四〇程度。MiCAMは六〇%。写真撮影AMは六〇%。写真撮影

では一定量の光が必要だが、家庭の茶の間の一般的な明るさといわれる五百ルクスを下回る光のもとも、毎秒一万回の撮影ができる設計とした。価格は映像を電子データ

米作業用品の 輸入販売開始

平創機

物流関連機器の製造・施工を手がける平創機(大阪府堺市、平亮一社長、072・234・7153)は、米国製の作業補助グッズの輸入販売

夕に交換する装置を含めて約一千万円。五月から販売し、主に大学医学部や製薬会社の研究機関向けの需要を見込む。製造はスタンレー電気が担当する。

脳神経の研究は脳の物質や機能の解明から、それぞれの酵素が反応する経過の仕組みの解析に進みつつある。五、六角の脳に十万余ある神経細胞をこれまでの百個単位から

「五個単位で観察する必要がある」(市川社長)とみている。少数の細胞を識別するには試料の蛍光たんぱく質を限定しなければならぬが、試料が減ると光量も減るため、取引先から高感度カメラ開発の要望が増えている。

ブレインビジョンは一九九八年の設立。二〇〇四年三ヶ月の売上高は約七千万円。〇五年三ヶ月は約一億三千万円を見込む。